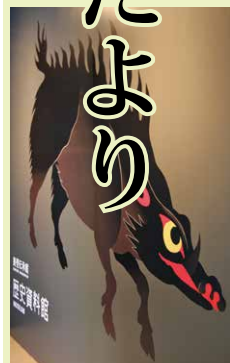


# 歴

## 史資料館だより



No.99  
教育委員会文化財課  
文化財グループ  
(☎58-5111・75-3111代表)

### 辰海道遺跡出土の紡錘車〔前編〕

#### 辰海道遺跡とは？

平成12年～15年、北関東自動車道や桜川筑西IC（インターチェンジ）建設にともなう発掘調査が行われた遺跡です。弥生時代後期から平安時代の約800年間にわたる栄えた約700軒の大規模集落跡や奈良・平安時代の鍛冶工房跡が見つかりました。今回は、辰海道遺跡から見つかった鉄製紡錘車をご紹介します。



#### 紡錘車とは？

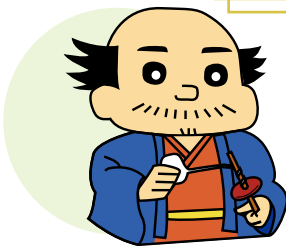
紡錘車とは、細い繊維をねじり合わせて糸を作る際に使う道具です。中心に棒を通すための穴が開けられています。紡錘車の大きさは直径3～5cmで、円盤や円錐型などの形があります。



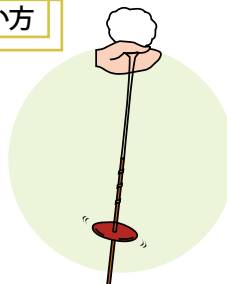
鉄製の紡錘車

使い方は、片方の手で繊維を持ち、繰り出した繊維を棒に引っかけ、その棒を回転させながらねじり合わせて糸を作り、棒に巻き付けます。この動作を繰り返していくと長い糸ができ、それを釣糸や漁網、織物に加工しました。

#### 紡錘車の使い方



ねじり合わせた糸を棒に巻き付ける



繊維を棒に引っかけ回転させる

あまり見慣れない道具ですが、現在でも南米のペルーなどでは紡錘車が使われています。駒のように回すことにより、小さな力で安定して大きな回転数を得ることができ、均質な糸を効率的に紡ぐことが可能になります。

#### 辰海道遺跡の紡錘車の特徴

辰海道遺跡からは、合計60点の紡錘車が発掘されました。材質は土製や粘土製のもの28点、石製が20点、鉄製が4点、土器の底を転用したものが8点です。大きさは、3cm～5.5cmのものが多く、なかには6cm以上の大型のものもあります。軽くて小さいものは織物用、重くて大きいものは釣糸や漁網用と、ねじり合わせる繊維の種類や太さによって使い分けていたと考えられます。これらは弥生時代後期から平安時代の住居跡から出土し、当時から辰海道遺跡では手工業の紡績が行われていたことが分かります。

また、鉄製の紡錘車は4点と希少で、これらは平安時代のうち10世紀代の住居跡からしか出土していません。それは一体なぜなのでしょう。次の歴史資料館だよりで詳しく解説します。

文化財課  
ホームページ



令和5年

## 無料法律相談会 開催4月30日(日)

初回無料・完全予約制です

弁護士法人  
**萩原総合法律事務所**  
筑西市乙828番3 SATOHビル2階  
(JR水戸線下館駅南口徒歩1分)



ご予約はこちらから

☎0296-48-8875



※初回の方限定とさせていただきます。  
※事情によりお断りさせていただくこともございます。

茨城県弁護士会所属弁護士 萩原 慎二・平久 真・藤井 宏治/風見 美瑠